



地球には太陽のエネルギーが降り注ぎ、人間の食料——植物・動物を育ててくれます。私たちは食べ物がなければ生きられません。今、日本は格差社会といわれ、食費を節約して生活する人々のことが話題に上ります。

私がいつも立ち返るのは第二次世界大戦後の日本です。食料が極度に不足し餓死する人も出ました。学園は空襲で焼け、母は学生を連れて群馬に疎開。親切な農家で学園を続ける中、園主の父は急逝、育ちざかりの年子^{としご}4人をかかえ、香川栄養学園の再建に奔走しまし

た。給与の遅配や給与を借りての『栄養と料理』の紙代の支払いもありました。長女の私が通学途中の肉屋で見つけた牛の舌や内臓などを買って帰ると、母は下処理をし、おいしい料理に変身させて子どもたちを驚喜させてくれました。臍物は栄養的に優れているのですが、人々は無関心でしたから安価で手に入りやすかったのです。買ったものはすべて、価格や重量、栄養価を記録しました。これがのちの『栄養家計簿』に発展しました。人間はくふうして苦境を乗り越えていくことができます。

しに

香川芳子 女子栄養大学学長

日々の暮らし

敗戦後の日本を思えば
どんなことも
乗り越えられます